

会 議 結 果 の お 知 ら せ

宮古市産業立市ビジョン策定委員会令和6年度第2回委員会を次のとおり開催しました。

令和6月12月27日

宮古市産業立市ビジョン策定委員会

- 1 開催日時
令和6年11月14日（木） 午後1時30分～午後3時00分
- 2 開催場所
市民交流センター1階 会議室1・2
- 3 議題
(1) 宮古市産業立市ビジョン実行計画（案）について
(2) その他
- 4 会議の概要
議題について説明した。
詳細は、別紙のとおり。
- 5 問い合わせ先
産業振興部 産業支援センター 産業支援係 電話0193-68-9092

宮古市産業立市ビジョン策定委員会第二回委員会 開催結果

1 出席者（9名）

花坂康太郎委員、植野歩未委員、雲然祥子委員、門坂道弘委員、寺井 繁委員、佐藤 功委員、笹平 仁委員、佐々木久志委員、大志田憲委員

2 欠席者（3名）

中居克広委員、小堀内将文委員、渡部玲子委員

3 事務局出席者（10名）

産業振興部長 岩間 健

産業振興次長 小成勝則

農林水産次長 飛澤寛一

企業立地港湾課長 竹原和彦

農林課長 袈岩邦行

産業支援センター所長 山崎義剛

〃 副主幹兼産業支援係長 畠山善徳

〃 商業労政係長 工藤 翠

〃 産業支援係主事 木村孝輝

〃 水産課主任 佐々木大輔

4 傍聴者

1名

5 議事等

(1) 宮古市産業立市ビジョンの実行計画案について

宮古市産業立市ビジョンの実行計画案について事務局から説明。審議を行った。

(2) その他

次回会議日程について事務局より説明

質疑応答内容

質問・意見	回答
【議題(1)「宮古市産業立市ビジョンの実行計画案について」】 質疑・意見なし 各分野について、出席委員及び事務局から状況を報告。 (委員) 農業振興に取り組んでいるが宮古市の農産物が全国に知られていない。イベント等の実施により、全国に名前を知らせる活動が必要。県内においても販売のチャンネルを拡大させイベント等で販売促進が必要(例:軽トラ市の実施等)。 (意見・報告) (事務局) 林業の状況が良くない。以前の統計データ、今あるデータを基に今後の推測が必要。プロジェクト概要については検討を続ける。担い手不足に対する確保の対策、木材利用した活性化、木の魅力を伝えること等をビジョンに反映できないかとの意見が出ている。2回目の委員会で意見をまとめて進めたい。 (報告) (委員) これまでに2回開催(水産)。水揚げ量の減少を踏まえ、栽培漁業・養殖漁業のつくり育てる漁業に一層力を入れる必要があるとの意見があった。また、担い手の確保・育成に力を入れていく必要があるとの意見も出ている。これらの意見を踏まえて新しい水産振興ビジョンとしてまとめていきたい。 (報告)	

(委員)

アフターコロナを迎え、街に人が歩いていないことが課題。消費行動が変わってきている。これらをどう打開していくかが大きな課題・問題となっている。

魅力ある商店街づくりでは、無電柱化については実施されたことから文言を削除した。

魅力ある個店づくりは、個店の魅力を発信する意味で、SNS強化が必要となっている。市内小学生の保護者を対象にアンケート調査を行い、少しずつ魅力ある個店づくりにつなげたい。

時代に合った商業形態への移行については、外国人の多くは、決済は主にカード(キャッシュレス)、になっていることから、個店の対応を強化することが課題。高齢化もあり、カードの機会を導入するのに二の足を踏んでいる。商店街単位で個店に推進する必要がある。

事業継続支援については、市内の老舗のお店も力が無くなっている。商工会議所等を通じて勉強を引き続き行っていきたい。

新規事業支援については、新しく就業し創業された方々のネットワークを形成していきたい。

商業は、問題が多岐に渡るため、細かいところで少しずつ解決していく必要がある。

(意見・報告)

(委員)

工業では、若年層のキャリア教育の推進、人材確保が課題である。これまで高校生のインターンシップを行っていたが、保護者向けにも工場見学等実施する必要があるという提案があった。

モノづくり体験として、テクノフェスタを開催している。各企業のブースで内容に展示のやり方・対応の仕方に差があったと思う。会

社によって引き付ける力、魅力をどうアピールするかを考えていかなければならない。

(意見・報告)

(委員)

観光は、前期計画がコロナ禍で実行が難しい状況だった。今期はこれまでの計画を基本ベースとしてブラッシュアップを図り実行していく。

ブランド化PRが上手くできないか。インバウンドなど、宮古に来てくれる方を有効に結び付けることができないか。従来の観光コンテンツをブラッシュアップすると共に、新たな地域の魅力コンテンツを作り上げられないか。などの意見があった。

また、若い委員の方も観光分野においても人手不足であることを認識し、問題視していた。

インフラの面では道路の話もあったが、素通りされている状況である。体験型・滞在型の観光でお金を使ってもらうコンテンツを作成する必要がある。

(意見・報告)

(委員)

クルーズ船は増えてきている。今後も情報発信を強化していく。フェリーターミナルの有効活用が話に出ている。物流の2024問題で、トラックから鉄道・船舶へシフトする流れがある。フェリーの利用も模索していければと思っている。港湾利用に関しては、工業・商業・農業・林業・漁業各分野の物が動かないと進まない。港湾利用も考えつつ進めて行かなければならない。

(意見・報告)

(委員)

それぞれの分野から出ている人手不足が一

番の課題。少子高齢化を使っているが、高齢者も減ってきている。子どもの生まれる数も減ってきている。去年生まれた数が 300 人。結婚対策、出産対策に手を付けなければ、各産業で担い手対策を行っていかないと人材の奪い合いになる。

宮古市では、テクノフェスタ、みやっこタウンなどを行っている。ものづくりネットワークも連携して残していきたい。

県も担い手対策は力を入れて取り組んで行かなければならない。

(意見・報告)

【議題(2) その他】

次回の会議日程について事務局から説明。